

<提案レポート・もくじ>

南中

1400坪

1. 大阪に今、まとめられるものは――――――

1-1 大阪の都心活性化への課題

1-2 キタ、ミナミの機能分担

1-3 ミナミの役割りと現状

2. ミナミの中の南中跡

2-1 ミナミのめざす方向、まちづくりの動き

2-2 南中跡周辺（アメリカ村）の状況

2-3 南中跡の位置づけ

3. 南中跡・利用計画

3-1 南中跡利用へのニーズ（アンケート、ヒヤリング）

3-2 南中跡利用計画の基本方針（コンセプト）

3-3 施設機能（カルチュア、ファッショն、コンベンション、駐車、プラザ etc）

3-4 空間イメージ

4. 実施プログラム

4-1 施設の管理、運営計画

4-2 実現化方法、事業主体の検討（第三セクター etc）

# 〈中間報告〉 1986.4.5.

(アリカ村の会 36, あんじうす3会 18, ミナミ・フォーラム 10, グラフは全てマレーフォーマーで単位%)

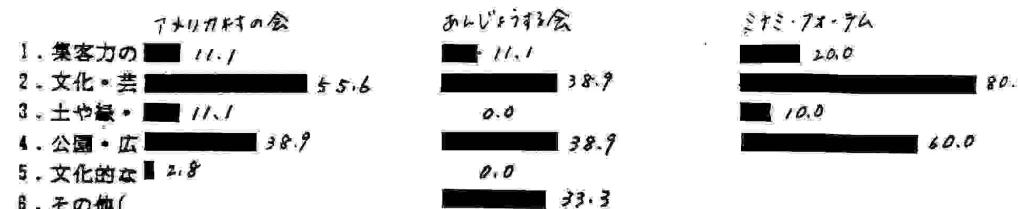
1 南中学校のある、アメリカ村あたりのまちのあり方について、日ごろとくに感じておられるのはどのようなことでしょうか。(あてはまるもの、すべてに○をつけてください。)

1. 夜の時間帯の人出がとだえる現状から、24時間生きているまちにすることが大切だ。
2. 土・日曜日に人が集中することから、平日の来客を考える必要がある。
3. 若い世代に、アメリカ村の良さをひきつづけ活力やアイデアが求められる。
4. 外からの資本が進出して、土地代・賃料料が高くなっているのが問題だ。
5. 訪れる層が複雑であり、もっと幅のひろい層・大人が楽しめるまちにするべきだ。
6. アメリカ村の中に住んでいる人、商売をしている人など、人の結びつきが求められる。
7. その他( )



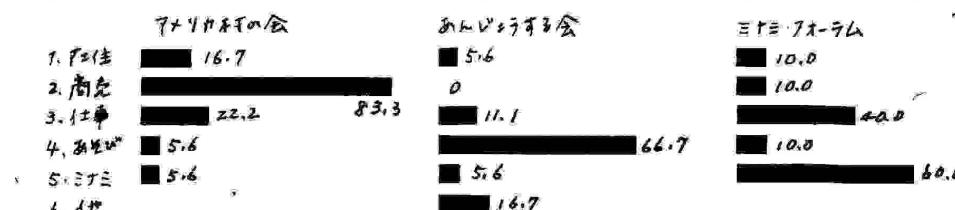
2 南中学校跡地の使い方として、どのようなイメージで考えるのがよいでしょうか。

1. 集客力のあるショッピング・センターをつくる。
2. 文化・芸能・レジャーなど新しい機能をもったセンター
3. 土や緑・花のある公園にする。
4. 公園・広場と文化的なセンターをつくる。
5. 文化的なセンターと住宅を組み合わせる。
6. その他( )



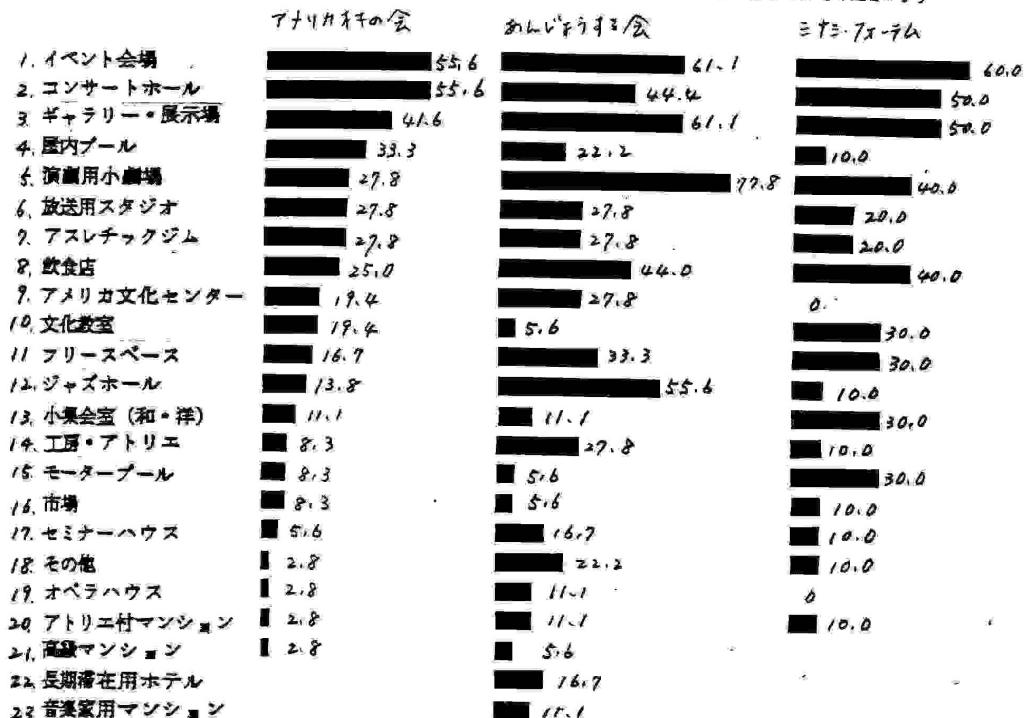
5 あなたとアメリカ村との関係についておたずねします。(あてはまるもの、すべてに○をつけてください。)

1. アメリカ村周辺に住んでいる。
2. アメリカ村で商売をしている。
3. アメリカ村周辺で仕事をしている。
4. アメリカ村によくあそび・買物にくる。
5. ミナミで商売をしている。
6. その他( )



3 南中学校跡地にどのような施設があればよいとお考えですか。

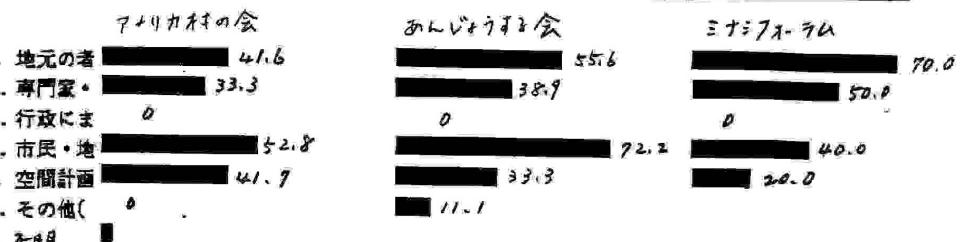
(あてはまるもの、すべてに○をつけてください。)



4 南中学校跡地の利用計画の進め方について、どのようにお考えですか。

(あてはまるもの、すべてに○をつけてください。)

1. 地元の者が参加して、検討する場をつくる。
2. 専門家・地元代表・行政などが参加する専門委員会をつくりて検討する。
3. 行政にまかせる。
4. 市民・地元からアイデアを公募する、アイデアコンペを行なう。
5. 空間計画・デザインについては、国際的な設計コンペを行なう。
6. その他( )



(注) あんじうす3会には盛り場アーム含む。

## 南中跡利用計画提案における

### 1. 大阪に今求められるものは

#### 1-1. 大阪の都心活性化への課題

《個性化の時代》と呼ばれ、《価値感の多様化》が事あるごとにさけばれる様になり、身のまわりのモノづくりにも、人間的な感覚を盛り込み、ヒューマンスケールや温くもりを取り返そうとする試みが定着しつつある。

ところが今日、様々な商品、ファッション、店舗、建築物等がデザイン的にも様々な角度から練り上げられて、それぞれ魅力的で、個性的なものとなって居るにもかかわらず、全ての要素の総体としての都市は、どこも同じような印象を与える没個性的で魅力のないものになってしまった居る。

そんな目で、大阪の都心の活性化を見直すとき、今一度「大阪らしさ」とは何だ?たのか、また、将来に向け求められる「大阪らしさ」とは何なのかをはっきり認識し、その実現に向けて様々なレベルで努力する事が、活性化につながる道であり、「大阪らしさ」の原点である盛り場を本当に意味のある愛すべきところとして、創り上げていく事が、都心の活性化、ひいては活性にあふれた動力ある、国際都市・OSAKAを創出する事にもつながると考えられる。

#### 1-2. キタ・ミナミの機能分担

大阪の盛り場を大別すれば、「キタ」と「ミナミ」に分けられる

が、この2大盛り場圏が性格を異にするところが、大阪の盛り場地図の特徴である。その差異を大まかに把握えれば、

キタ……“人工的、画一的、三ニ東京、きまじめ”“スクラップ＆ビルド型まちづくり”“公共主導型大改造”

ミナミ……“庶民の街、個性的、人間良さ、雜居、おっとり”“歴史的重型まちづくり”“ゲリラ的三ニ再開発”

と呼べるかもしれません。

しかし、キタ、ミナミのどちらが良いか、という考え方ではなく、それぞれが商業施設の厚みを増し、盛り場としての質の向上と活性化をはかることが大切だと考えたい。それには、それぞれの盛り場が、その個性を認識したうえで、来たる、国際情報都市OSAKAの時代に向けて、魅力的なまちを創り出し、それが何か“たらしさ”を持つ、大阪を代表する2つの顔になる事が望まれる。

#### 1-3. ミナミの役割と現状

キタでは大阪の伝統や人情を切り捨て、TOKYO TASTEとも言え、コスモポリタンな指向で急激な成長をとげてきた。一方ミナミでは、大阪人の気風や「浪花商法」や、老舗感覚を色濃く残しており、面的広がりを持つ盛り場として、まわりのまちとも有機的なつながりを持ち、裏道や、辻々、界隈といった表現がぴったりくるような、街のたたずまい(表情)を持つている。また、画一的な立体方向へののみの成長ばかりを追い求めなかった事により、太陽の輝きや、風の薰り、雨の匂い、樹々の輝きに代表される自然な季節感が

残されて居る。そのことが、これからの大都市に求められる「進歩性」をしっかりと備えることにつながっている。またミナミは多くの大阪独自の文化を生み育てる都市文化の根城ともなってきた。

しかし、これらの貴重な要素を「大阪らしさ」「ミナミらしさ」として全体で盛り立っていく意識が、まだ希薄であり、ミナミの特質＝「らしさ」を無視した自己放棄とも言える、街づくり、店づくりが無難作に推し進められて居る危機を迎えている。

ミナミがになって来た役割は、若者が「大阪らしさ」を身を持つて体験し、それを育み、人間的に成長して行く中で、真の大人として、互いを認め合い、それぞれが「大阪文化をになつて行く上での教場であり、蓄電の場であったと言える。それこそが、盛り場が持つている機能だと考えると、真の意味での、ミナミの活性化がはたす役割はきめめて大きく、今その視点に立った研究と行動がなされないと時期を失なうことになるといえよう。

## 2. ミナミの中の南中跡

### 2-1. ミナミのめざす方向、まちづくりの動き

大阪のまちづくりを考える上で、盛り場にその芽を見い出そう、  
都市の持つているエネルギーの源に触れよう、という事から始ま  
た、大阪都市環境会議の盛り場研究会は、盛り場を今一度とらえ直  
してみようとしているうちに、盛り場ミナミの魅力にとりつかれ、  
やがて、MAP作り、大阪盛り場図鑑の出版、盛り場フーラクシス・  
セミナーと、5年に渡ってその歩みを進める事となった。私たちに

とうマ最大の収穫であるのは、ミナミの各エリアで新しいまちづくり、ミナミの活性化に真剣に取り組んで居る多くの人々、ミナミに育ち、ミナミを愛し、自分たちのまちを何とか良くしようと努力して居る人達の横のつながり、エリアどうしの連携のきっかけを創出できたことである。

まちづくりの動きは、都市文化再生のになり手である、島の内教会（島の内小劇場）、周防町美化促進連合会に代表されるヨーロッパ村の動き、昔日のおもかげをその石だたみに取り戻した法善寺横丁、若手グループが頑張って居る戎橋商店街、黒門市場近代化研究会のたゆまぬ努力、心斎橋筋のアーケードをめぐる動き、アメリカ村ユニオンのユニークな活動、アメリカ村の会の人々の着実な歩み、そして、様々なエリアの人々が参加して居るミナミのまちづくりの動きと意識の集合体とも言えるミナミフォーラム、その他、道頓堀千日前、日本橋などでも問題意識を持って自分達のまちを見ている人は少くない。

これらの活動のはらいが「危機感に根ざしたもの」であれ、夢の産物であれ、商売がらみであれ、ミナミのめざす方向を暗示するものであることは違いない。

全体の動きをとらえ、ミナミのめざす方向を示すならば、次のようにまとめることができる。

■各エリアの特徴的魅力を、潜在的なものや歴史的背景や、そこに住む人々の意識まで含めて認識し、「らしさ」を再構成しつつ、

将来に向けての活性化をトータルにはかる。

- 各エリアが面的に拡がり、有機的につながつマリする特徴を生かし、まちに回遊性を創り出し、連携をはかるとともに、画一的でない多様なまちの表情を生み出す。
- 光、風、緑などの季節感を盛り込んだまちづくりで、住宅と商業施設、公共的な施設の高度な融合をはかり、「人の住むまち、住みたくなるまち」というようなまちを創り出す。
- 現在、三十三の弱点と言われる文化的機能や、社交的機能を、国際情報化時代をも想定しながら充実させ、「そこに行きたくなるまち」を創る。
- 建築を初めとする、空間の質の向上につとめる。

## 2-2. 南中跡周辺(アメリカ村)の状況

70年代の後半、若者の自由な発想と熱意が、経営者、ユーザーとともにあふれて居た三角公園界隈が、誰いうともなく、アメリカ村と呼ばれるようになり、折からのサーフィンブームにのって新しいフアッショニヤ、若者文化の発信源として、その存在を日本全国に知られる道になつマリった。しかし、80年代に入って、ブームのきづととともに、経営基盤の弱い店が、次々に倒産はじめたり、レベルの低い店が混じつたりなど現象が起つたが、若者のエネルギーの再結集をはかるために、アメリカ村ユニオン、そしてアメリカ村の会(当初は「周防町通りを美しくする会」)が結成され、84年には、三角公園をイベント広場に改造するなどの努力により、大

阪を代表する新しいタイプの盛り場として再び定着してきた。しかし、アメリカ村の評価が確定し、人が集まる反面、地価がはね上がり、若者が独創的で、創造的な意識で入り込んで来る余地がなくなり、好きな事をしようにも許されない土壤になりつつある。資金力のある大手のディベロッパー、プロフェッショナルが入り込んで、ちょっと見には新しいが、その裏、類型的なファッラヨンビルにて替えられる光景も日常化し、商品もどこにでもある様な物を置いて居る店も少くない状況がみられる。

アメリカ村が本質的、初原的に持つマリたのは「古き良き時代」と先進的なムードメントの融合のハーモニーである。そして、決して大きいとは言えないが、若の独創的な創造性、企画力、行動力、に裏付けられたチームワークが生み出し育てて来た、大阪若者文化と言える新しい盛り場のカルチャーが、定着した人気の中でその行き先を見失い、その魅力的な輝きを無くしまうのではないかとの危惧が感じられる。

現在アメリカ村ではニューメディアの導入など様々な努力が続けれられて居るのも事実であるが、平日や夜間の集客力にはまだまだ問題があり、三十三盛り場ルネッサンスのベルエポックの拠点になり得る新たなハードとソフトを生み出さなければならぬ時期に来居る。

## 2-3. 南中跡の位置づけ

社会的ニーズや、状況の変化により、機能やその存在意義が日常

に合わなくなってしまったのである施設や建物が、都心部に種々見受けられるが、都心に住む子供の減少により、大阪市立南中学校はその長い歴史をとじることになった。しかし、南中はその立地条件や、跡地としてのスケールの大きさから考えて、再利用計画をせまい行政の枠内の発想や、思いつき的に行なうのは、アメリカ村にとってはもとより、ミナミ全体、ひいては大阪の将来発展のためにも得策ではない。

南中学跡地は、アメリカ村の中心部、三角公園の北東部に位置し、約1400坪(4600M<sup>2</sup>)の広さを持ち、周防町筋と西清水町筋の両方に接する敷地で、その跡地利用のあり方は、ミナミの活性化をはかる上で、決定的な意味をもちうるものといえる。現在南中には地元をはじめ、各方面から熱い注目が向けられ、居るが、このまちの特質、「らしさ」を踏まえたうえで、長期的な展望と、広い視野で衆知を集め、「活気ある新しい盛り場」「大阪らしさ」の拠点となる世界にはこれらの空間と施設を創り出すことこそ、大阪人みんなの望みである。南中跡利用計画は、国際都市のSAKAの玄関であり、頗る重要なミッションにとって、最重要課題であり、緊急を要するとともに、プロジェクトとして成功すれば限り無いメリットをもたらすものと考えたって、大阪にもたらすものと考えられる。一方、再利用計画がおせなりになってしまった場合の損失ははかり得ないものと考えられる。

4/26(土) 南中 貸学会 2<sup>9</sup>

5/17(土) 研究会 2<sup>9</sup>-5<sup>9</sup>

南中前